

ほっとこらせ

2013年12月19日/発行:北海道重症心身障害児(者)を守る会在宅部会(略称-守る会) 第54号

重症児とともに・今思う事

札幌あゆみの園園長 篠原義文

守る会の皆様との出会いは、私が平成22年札幌あゆみの園に来て、当園の保護者会の皆様とお会いするようになってからですので、まだ大変日が浅いわけです。ただ何人かの保護者様とは前職場・前々職場で患者様を通して知り現在に至っている方もおります。

昭和50年代の話になりますが、小児外科の研修(旧小児センター)では先天性の重篤な病気を持つ新生児や乳幼児が多く、救命は出来ても何らかの障害を残して退院された方も多くいらっしゃいました。私は約15年間小児外科を学んだあと、事情があり一般の急性期病院へ移りましたがここでの約15年間はいわゆる成人外科・老人外科が主でした。しかしここで小児センター退院後の人に再び出会い、また札幌あゆみの園の利用者の方も多く診させていただきました。10～20～30年の年月が、当時障害をもって退院された方が成長され、またその時の障害も時とともに変化していく姿を学ばせていただきました。

小児を標榜している科は、原則15歳未満の子供を対象としていますが、現実には患者さんが20歳過ぎても診てくれる先生方は多くいます。小児科医であり内科医でもある先生が理想的ですが、小児外科医も同じです。重症児施設はまさにそのような所ではないかと思っています。

平成22年、あゆみの園に勤務する事になってからは、成人外科で学んだことが役立っています。現在入所の利用者様の平均年齢は40歳(4歳～81歳)ですので成人期・老人期の疾病を診る事も多々あります。

私の今までの経験を振り返ると、札幌あゆみの園で勤務するための準備段階であったような気がしております。この間残念ながら亡くなられた子供たちもたくさんいましたが、重篤な障害を抱えながら10～20年と頑張っていて生きてゆく姿をみると驚きと生命の畏敬を感じられる日々で、重症児者の皆様と時を同じくして生かされている思いです。

現実的な話になりますが、あゆみの園は昨年度16床の増床をしましたがすぐに満床となり、待機者リストは70名を超えています。

ご家庭で過ごされている重症児(超・準重症児も含め)は、札幌市だけでもおよそ300名おり、幸せな環境に居られると思いますがその環境をいつまでも維持することは困難ですし、ご家族の休息やより高度な医療的ケア・介護サービスが必要になって来ます。国の方針を挙げるまでなく、重症児者の方が在宅でご家族と一緒に地域生活にとけこみ生きていける事が一番ですが、そこには医療と福祉の支援が必須です。

札幌あゆみの園は、これまでも在宅支援に取り組んでまいりましたが、平成26年4月東区東雁木に重症児者を対象に生活介護事業所(定員20名)の開設を目指しております。すでに施設の建設は始まっており、来年4月開設予定で、重症心身障害児者の日中活動支援に少しでもお役に立てばと準備を進めております。

私が今思う事は、重篤な障害を持っていても与えられた生命を真摯に生きている子供たちと共に生きているのだと言う気持ちで、少しでも重症児者やそのご家族のお役に立ちたいと思っております。

地域で暮らす安心の仕組み

全国守る会として運動を進めるうえで

- ・現状報告がブロック(県支部の集合体)全体の実態を把握しきれていない。
⇒各支部の中で在宅部会のない所もあり、少数の在宅会員の支部では活動も低迷している。
- ・会員以外の在宅重症児者の実態もより広く把握しニーズを拾い上げる。
⇒非会員の在宅の集まりともつながり、意見交換の機会を持つ。
- ・施設側の在宅支援に的確なニーズを挙げていく。
- ・地域の自治体との交渉などで問題解決していくことと、全国守る会として、国に要望していくことを振り分けることも大切。

できる限りの実態把握を！

レスパイトケアの充実に向けた取り組み(熊本県)

■人工呼吸器児童生徒訪問看護利用補助事業

- ☞目的..人工呼吸器を装着して県立特別支援学校に通学する児童生徒に付き添う保護者の負担軽減を図る。
- ☞事業の概要..保護者と訪問看護ステーションが、必要な医療的ケア(人工呼吸器の管理を含む)を学校で行うことを契約し、これに基づく看護師派遣費用に対する経費を県が補助。(原則適当たり1日程度の派遣費用全額 週2日又は3日に分けての利用も可)

18歳を過ぎた重症者の受診について

『小児科から内科への移行』を勧められるが...

- ・一般病院の内科医の理解は低い
- ・入院の問題(いつまでも小児科?・内科の一般入院は?)
- ・成人になると成人特有の病気が出てくる。
- ・自治体によっては18歳以降も小児科受診が可能になっている病院もある。
⇒親子が元気なうちから、地域の開業医とのつながりを持つようにする。
- ・重症児病院と地域病院との連携
- ・重症児施設の在宅者への外来・入院への支援

近頃は主治医の配慮で小児科の個室で入院になりま
す。付添いはやっぱ
り疲れますが...

声

思いがけず、町内の内科医を開拓できて、風邪のときなどすぐ診察してもらえます。

短期入所

・医療機関の受入も進んでいるがその病院の通院などが条件になっていることも。

■有償ボランティアの活用(朝晩の食事時間で目が行き届かない時間帯の意思伝達目的)

・申し込みは1ヵ月、2ヵ月前からが多く、緊急時への対応も難しい

(*普段からの利用、保護者付きでお試し利用が必要)

声

・農繁期に短期入所を予約していますが、天候不順で、農作業が遅れたりすると、利用日の変更も難しく困っています。

・親の高齢化で短期入所の送迎も半日がかかりが大変になっていきます。今、通所している生活介護など、身近での利用ができるとう助かります。
(滝川地区)

その実情は？

介護職員等の疲の

吸引等研修制度(H24~)

■ヘルパー、介護福祉士などが医療的ケアを実施するための研修会参加が進んでいない。

・中小規模の事業所では職員配置にゆとりがない。

・実地研修への訪問看護師等の協力が難しい

■事業所の負担を軽減し、医療的ケア実施の事業所・スタッフを広げるために

☞利用者が制度活用に向けて、主治医・訪問看護ステーションの協力や事業所の理解を呼びかけていく。

☞道内各地で民間研修機関の実施

※制度化後も違法性の阻却による取扱に変更はありません。

北海道の受講者数

平成23年度~平成25年度 11月約400名

事業所登録86カ所(特別支援学校を含む)

疲の吸引等制度研修【特定の者】

基本研修

9時間

<講義
+演習>

実地研修【重視】

医師・看護師の
評価・指導の基、介護職
員等が適切にできるまで
繰り返し実施

⇒本人(家族)の評価

本人へ
実施

☞平成25年度2回の道研修は札幌を中心に開催

(北海道として道社会福祉協議会に委託)

* 地方では人が集まらない

⇒地方の事業所は旅費等負担が大きい

※違法性の阻却

「家族以外の医療的ケア行為は医師法違反の行為ですが、一定の条件(家族・本人との同意など)を満たしていれば正当行為として認められるので罪には問われません」

今、求められる在宅支援！

多機能型支援施設

医療的ケアを必要とする障害児者が地域生活を継続するために必要な短期入所、訪問看護・介護などを一体的に提供できる多機能型支援施設

■横浜市多機能型拠点施設 ^{さと}郷(神奈川県横浜市栄地区桂台中2-1)

(H21~26 横浜市障害者プラン 将来にわたるあんしん施策)

設置運営:社会福祉法人 訪問の家(横浜市より運営費等を補助)

□札幌市医療法人稲生会(院長:土島智幸)

■生涯医療クリニックさっぽろ <往診などの在宅医療>

◆訪問看護ステーション くまさんの手

◆居宅介護事業所 くまさんの手

www.toseikai.net

◆短期入所事業所(医療型日中ショート) どんぐりの森

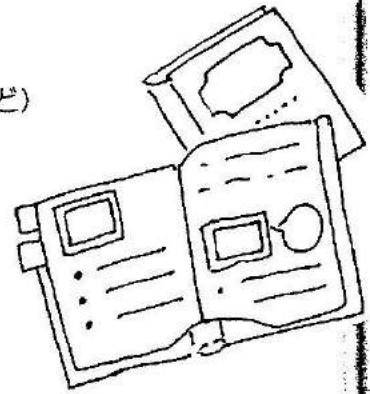
(札幌市手稲区前田1条12丁目357番地22Tel011-685-2799)

卒復の暮らし
～元氣をつなぐ～

今回は入院時、ショートステイ時、事業所との引き継ぎに利用できる本人ファイルや連絡帳の工夫の情報をお知らせします。

本人ファイルの作成

- ・写真を多く!! (摂食時の姿勢、体位の工夫)
- ・普段のバイタル (体温、SP02、排泄の回数、食事水分量、薬の情報など)
- ・緊急時の連絡先 (自宅・父母の携帯、緊急先連絡一覧)
- ・成育歴、手術歴 など
- ・好きなこと、嫌いなこと
- ・対話のきっかけとなる幼い頃の写真や思い出の写真
- ・具体的なコミュニケーション方法



ポイント

- ・情報が変わるたびに差し替えが必要
- ・本人を知ってもらうためにしっかり作る



●特に引き継ぎしたいところをビデオカメラで写し、DVDにして各事業所に渡す。

〈例〉

- ・プールの介助
- ・摂食の介助

DVDの活用

●バギーの乗せ方、ストレッチの方法など注意点を普段使うバギー類にぶら下げる。写真を多くする。

即確認用に!!

通所先での連絡帳

各事業所の知りたい情報とは?同じ?違うところは?? ↓

事業所に複数通うと複数の連絡帳が...一冊にまとめてみたらどうだろう??

大切 !!
確認し合うこと

一冊にまとめる時は各事業所と確認しあい作成する。

事業所さんへ『一冊にまとめた連絡帳
使ってみてはどうですか?』

- *他の事業所の様子に分かって参考になる。
- *一日の流れが分かり、何をやっていたのかわかる。
- *他の事業所でやっていることを自分の所でも取り入れたり、似てる活動になる時は少し変えて対応出来る。
- *母親からの引き継ぎやいつもと違う体調の時は色分けしたりするともっと分かりやすくなると思う。
- *体調不良時のことが分かり、あとから見た時にこの時期は風邪を引きやすいから気を付けようと思うことが出来る。

<* 実際に使用している連絡帳例> | A4 用紙

年 月 日 (曜日)

記載方法	吸引	食事・水分	薬	排尿	排便	体温	SP02・脈拍	血圧	姿勢	睡眠	その他活動内容(活動場所・記入者名)
	✓	内容・量	✓	(+)(-)	✓	数値	数値	数値		↓	その他特記事項(胃残・Air・対応等)
7時											
8時											
9時											
22時											
23時											
24時											

家庭から 本日の連絡先(自宅・携帯・その他)

★事業所からの連絡事項

事業所名:	事業所名:
記載者:	記載者:

支援者会議・ケア会議

日々のQOL(命の輝き)を目指して

○学校卒業にむけて

支援者会議・ケア会議

(通所、ヘルパーなど在宅サービス職員、学校職員、訪問リハ担当者、相談員など本人に関わる人が参加)
引き継ぎしたいこと、気を付けることなど情報共有の場



○学校卒業後は

支援者会議・ケア会議

(通所、在宅サービス職員、訪問リハ担当者、相談員、障がい福祉担当者など本人に関わる人が参加)

問題意識の共有

病態(生命の安全)、健康維持、社会生活(遊び・出会い・学び)などどこが欠けているのか明確に理解しながら、関係者同士が常に問題意識を持って支援にあたる。

コーディネーター(呼びかけ人)は?

支援者会議・ケア会議で質問事項、提案事項などを話し合えるようにする。
其々の支援者が本人を支えている1人として自覚を持ち参加する。

保護者の役割

本人のために諦めずに伝えていくことが大切。

声

難しい卒後の
 会議の継続の
 です支援者
 よってね



★他にも本人ファイル、連絡帳の工夫などありましたら編集委員までお知らせ下さい。 <猪狩 記>

日常的に体幹を支え側彎の進行を防ぐ プレーリーくん

大阪発達総合療育センター南大阪小児リハビリテーション病院で開発された側彎矯正装具です。

- ◆座位をとる時の支えとして使用
- ◆移動などの介助がしやすい。
- ◆これまでの装具より締め付けが緩和されています。



ワンタッチ装着など本人に合わせて作ってもらうオーダーメイドも可能になってきています。側彎の進行が気になる方は担当の整形外科、補装具事業所と相談してみてもいいかもしれません。

とろみ調整食品

コレ！ いいね！

《 スペラカーゼ 》

ミキサー食で、ご飯のベタつきに困っている方、必見！！

とろみ調整食品のスペラカーゼをご存知ですか？

ご飯や、おかゆをミキサーにかけると、のり状になりベタついて、とても食べづらいですね。しかも、食事中に唾液と混ざると離水して水っぽくなり、更に食べづらくなってしまいます。

でも、このスペラカーゼ、本当に凄いです！

原材料に、でんぷん分解酵素を使用しており、この酵素のおかげで、ご飯や、おかゆがベタつかず**ブルブル**のゼリー状になります。もちろん、他の食材にも使用できますが、特に効果を発揮するのは、ご飯や、おかゆ等のでんぷんを多く含む食品です。我が家はスペラカーゼに出会ってから食の幅が広がり、ご飯を食べる時の子どもの**ムセる回数もグーンと減りました。**

作り方は簡単！食材をミキサーにかけるとき、一緒にスペラカーゼを入れるだけです。使用する量など詳しい事はネットで検索してみてくださいね。

最近は、とろみ調整食品の種類も豊富になり、少量でとろみがつくタイプやゲル状になるタイプなど、色々な物が出ています。皆さんは、どんな基準で選んでいますか？

もっと良い物を知っています！とか、こんな物が、こんなに美味しく食べやすくなりますよ！などの情報がありましたら是非教えて頂きたいと思います。皆さんと情報を共有し、作る側も食べる側も楽しい食事の時間が持てると嬉しいですね！

＜ 三浦 記 ＞

北翔養護学校 理学療法士
石澤奈緒子

重度の子ども達にとって、「食事」は自分の選択よりも介護者という他者に委ねることが多くなります。それから、嚥下障がいにより、食物形態や摂取方法が限定される特徴を持っています。また、繰り返す感染症や意欲の低下、嘔吐、皮膚状態の悪化などの症状が、基礎疾患からくるものと判断され、栄養との関連が見逃されるケースもあります。

子ども達がいきいきと活動する基盤となる健康を支えるために、栄養を考えることは大切です。

栄養状態

重度の障がいがある場合では、栄養が充分摂れないため一般児より体重が軽くなりがちです。自分の経験でも、身長と体重の関係から低体重かな？と感じるケースが多くあります。

適切でない栄養管理により(1)感染しやすい(風邪・発熱)、(2)活動が思うようにできない(低覚醒状態含む)、(3)眠気、(4)浮腫、(5)便通異常、(6)皮膚症状の悪化などにつながる場合があります。

では、体重が多いほどよいか、と聞かれると、介護量・本人の抗重力動作への影響などを考えます。介助量が増えると、介助者の負担が増え、継続した介護が難しくなります。体重が増加した時、それを十分に支持できる筋力量がついてこなければ、今までの動作が保てなくなることもあります。

栄養素について

食べ物に含まれる栄養素はお互いの動きを補い合って生命を維持し、からだをつくっています。摂食が困難な子ども達は食べやすいものが限定されることから偏食の傾向がみられますが、成長と発達には、各栄養素をバランスよく摂取することが大切です。

たとえば、たんぱく質の量に対して糖質や脂質の量が足りないと、たんぱく質の一部がエネルギーとして使われるため、からだづくりに使われる量が減ってしまいます。

また、成長に欠かせないビタミンやミネラルですが、食べる量が少ない、好き嫌いが多い、経腸栄養剤を使用している場合など、食事の状況や、飲んでいる薬の種類によっては不足することがあります。

※ミネラル (カルシウム・鉄・亜鉛)

骨密度の計測をしてもらうお子さんもいます。同年代の子ども達と比較することに異論もあるところとは思いますが、自分は介助する上で骨折のリスクの参考にしています。

眠ることも食べることも「体力」が必要

最後になりますが、人間の活動量は「METs」で表すことができます。詳しい説明は省略しますが、石澤(150cm/53kg)で計算すると

1.0 METs…

睡眠 (8時間) 消費エネルギー量 445 kcal

1.3 METs…

静かに坐位 (1時間) 消費エネルギー量 72kcal

1.5 METs…

食事 (1時間×3回) 消費エネルギー80kcal×3回となります。

眠るのにも、食べるのにもエネルギーを消費しているんですね！

※「METs」⇒活動・運動を行った時に安静時(1.0METs)の何倍のカロリー消費をしているかを表します。

例:「散歩」は2.5METsは安静時の2.5倍のカロリー消費

定期的な体重測定で体調管理

体重や身長の増加は十人十色。その子なりの順調な成長をみることが大切だと思います。

栄養状態について気になる時は一度病院で相談してみてもいかがでしょうか。

また、体温や血圧と同じように定期的に測定すること、1年間で10%の減少をみる場合はやはり病院でお話してみることをおすすめします。

<参考文献>

・障害児者の摂食・嚥下・呼吸リハビリテーション (金子芳洋・医歯薬出版)

・お子さまの成長と発達に大切な栄養のおはなし (ネスレ日本株式会社)

♪音が好き♪

竹田 まり子 <旭川地区>

我が家の長男健太 昭和61年9月18日生 27歳

難産でお産に30時間ちかくかかり、仮死状態で生まれその後遺症で食べる事、話す事、歩く事、何一つできない重度の脳性マヒになり、今も寝たきりですが自宅で家族と一緒に暮しています。

小さい時はすぐ嘔吐して誤嚥で肺炎になり、一年のほとんどが入院生活でした。

少しでも肺炎にならないようにと、8歳の時、鼻からの栄養チューブをやめて、胃の噴門形成術と胃ろうボタンにしました。それから嘔吐はしなくなりましたが、今度はよだれによる誤嚥で肺炎になり、14歳で気管切開をしてそれで調子がよくなると思いました。

けれど16歳の時呼吸状態が悪くなり、医師に呼吸器の装着を勧められました。

呼吸器の装置に伴い『声帯』を取らなくてはなりませんでした。

健太自身意思表示はできず、親の私達が答えを出さなくてはなりませんでした。

色々考えて『命の為、生きていく為』に口頭分離術をして呼吸器を付けました。

その日から健太の声を聞く事ができなくなりました。それまでは言葉は話せなくても「アーアー、ウーウー」と声を出していました。何も解らない健太でも「声が出ない！」って何か変だなあ…と思ったに違いないと思います。

それからは肺炎にもなりにくくなり元気になりました。

小中高とも旭川養護学校の訪問教育でお世話になり、週3回自宅で勉強し体を動かす事と『音』が好きな健太は音楽、運動を中心に指導していただきました。

今、健太は北海道療育園の週2回の通園サービス、訪問看護ステーションから月2回のお風呂サービスにお世話になり、月1回は音楽サークルで遊び、あとは自宅でラジオから流れる声や歌で『音』を楽しみながら毎日を過ごしています。

そんな中、今年3月にあるラジオ番組の企画で、シンガーソングライターの「みのや雅彦さん」が健太に歌を作ってくれました。『命の音』という歌です。

どんな人にも通じる想いを歌ってくれている、とってもイイ歌です。

先日旭川ショッピングモールでのイベントにみのや雅彦さんが来ていて、健太を連れて会いに行きCDに「ケンタくんへ」とサインと握手をしてもらい「がんばってね」と声をかけていただきました。とてもいい思い出になりました。

今日も健太はラジオやCDを聞きながら『音』を楽しんでいます。



在宅部会 そっちこっち

日常生活用具給付対象に

パルスオキシメーター

北見市では平成25年4月より呼吸機能障がいや心臓機能障がいの方の動脈血酸素飽和度を測定する「パルスオキシメーター」について給付種目として追加されました。

日常の健康管理、体調のすぐれない時の病院への通報などに活用できるといいですね。(オホーツク地区)

日高地域の取り組み

代表 上島 浩子

日高地域は、18歳～30歳の在宅の子どもたちを持つ9名で新ひだか町を中心に活動しています。「守る会」として活動する以前から、色々な組織を作りながら様々な課題を乗り越えてきました。平成元年に児童療育相談センターの開設、施設内分校の養護学校に特例通学生として自宅からの通学の許可、老朽化した分校の新築移転、高等部の設置。そして平成17年には、障がいの重い人たちの日中活動ができる場所としてペテカリ法人静内桜風園に『デイセンター虹』を開設していただきました。

この25年、子どもの成長に合わせて次々と出てきた課題の一つ一つを解決するために親たちが団結して地道に活動し、それに施設も行政も理解を示してくださったことで今の新ひだか町の現状があるのだと思います。

生まれ育ったこの町で

今、親も年をとり在宅生活を基盤としていくことが年々難しくなり、家庭以外に子どもたちが安心して過ごせる場所が必要になってきました。

そこで私たちは今年度『障がいの重い人たちも生涯を通して地域で安心して暮らしていけるように』という親の願いを各町に理解していただこうと考え『医療行為が必要な人も含めて一時的に安心して生活できるショートステイの場所』と『将来、安心して生活できる場所であるケアホーム』の開設についての要望書を作成し、日高管内7町のうち私たちが実態を把握している、えりも町、様似町、浦河町、新ひだか町、新冠町の5町の町長さんに直接お会いし要望書を提出いたしました。

各町に提出するにあたっては福祉関係の事業所や各団体の方々に賛同していただきとても励まされました。また、要望書には盛り込まなかったのですが、『虹』のような障がいの重い人たちが日中活動できる場所をせめて東部・西部にも開設してほしいことや、看護師さんの配置が必要であることも伝えてきました。

各町とも私たちの願いを十分に理解して下さり、難しい内容ではあるものの日高全体の問題として町村会の議題に取り上げ、7町の福祉課による共同協議を始めて下さいました。

私たちの願いの実現には課題が沢山ありますが日高全体の問題として考え協議されることになったのは大きな一歩であると思っています。



障がいの重い人たちが家に閉じこもって家族以外との接点がないということにはならず、其々の社会参加が可能になるような地域づくりが必要だと思っています。

何事も親たちだけの力では実現は難しいのですが、地域に理解していただく努力を続け、親と行政と施設の三者が力を合わせることで一歩ずつ実現に向かっていくものと信じ、諦めずに進めていきたいと思っています。

しあわせの色

先日 NICU から在宅へ移行した未来ちゃんのサポートチーム(医師・病院ソーシャルワーカー・訪問看護師・リハスタッフ・保健師など)とお母さんからの話を聞く機会がありました。

未来ちゃんは 18 トリソミーという染色体異常の障がいと心臓疾患、退院前には肝臓に悪性腫瘍も見つかり、天国に帰ることを予測しての退院でした。でも、お父さん、お母さんの愛情に育まれ、未来ちゃんの生きる力は腫瘍も小さくなってしまふほど、体重も増え、成長を確認するまでになったそうです。

お母さんは「未来を育てることで私の価値観は変わりました。五体満足で長生きをすることがしあわせとは限らない。」と話されました。

未来ちゃんのようなサポート体制が全国的にもっともっと広がってほしい！

きっと、命の輝きが重い障がいがあっても其々のしあわせの色があることに気づかせてくれるのではないのでしょうか。

＜太田 記＞

今後の予定

- 1/11・12(土・日)オホーツク地区守る会映画「生まれる」上映会
11日＜北見市芸術文化ホール＞ 12日＜網走エコセンター＞
- 1/18(土)オホーツク地区守る会北見市長との懇談会
- 1/19(日) 札幌地区守る会 H25 年度第 1 回ほっとこ会
13:30～15:30(13:00受付)＜北翔看護学校療法室＞
- 1/19(日) 全国守る会運動推進委員会 ＜本部＞
- 2/1・2(土・日) 全国守る会支部長会議 ＜本部＞
- 2/22(土) 北海道守る会第 4 回理事会
13:00～16:00＜札幌市クリスチャンセンター＞
- 3/30(日) 札幌地区守る会介護者支援研修会
～誤嚥しない摂食のために(仮)～13:30～16:00



小さな声を大切な声として届けるために！

正会員・賛助会員募集

北海道守る会は子どもたちの生涯にわたるより良い暮らしを願って地域に根ざした活動を展開しています

連絡先☎北海道守る会事務局

〒071-8144 旭川市春光台 4 条 10 丁目

☎(0166)51-6524・FAX(0166)51-6871

会費☞正会員 8,600 円

☞賛助会員 7,000 円

(月刊誌両親の集い 購読料 350 円を含む)

編集後記

十月末に北海道守る会在宅部会が開かれました。全国守る会専門部会長会議からの課題提起と併せて各地区の状況報告がありました。

「陸の孤島といわれても、夢をもてる運動ができるんですよ」「田舎の地域生活を成り立たせるためには評価より話し合いです」等：各地区の底力とつながりを生かした活動に希望が見えました。

今回の発行に際し、ご多忙の中寄稿して下さいました皆様にご心より感謝申し上げます。

＜太田 記＞

☎FAX011-771-8345

Eメール

cpwsr828@chime.ocn.ne.jp

★ 編集責任者・太田由美子 ★ 編集協力者・猪狩麻起子・三浦智美・中村穂子(カット)

★ 会への要望、会報へのご意見、ご希望等がありましたら各地区在宅役員又は太田迄お寄せください。